

自己評価の結果について

学校法人 旭川カトリック学園 認定こども園 名寄カトリック幼稚園

2026年2月26日

1. 本園の教育目標

『おいのり・しんせつ・がまん』

- ・キリスト教の教えに基づいて、日々の生活の中で人を大切に、互いを思いやることのできる豊かな心を育てます。
- ・明るく元気でたくましく、伸び伸びしたなかでも、礼儀正しい生活を大切にしています。
- ・友達と仲良く遊び、協力し、楽しく生活する中で、人への愛情や信頼感を感じ、すすんで善い行いをする心を養います。
- ・表現活動やさまざまな遊びを通して、神さまから与えられた力を十分に発揮し、豊かな感性、創造力を育てます。

2. 本年度、重点的に取り組む目標・計画

『自ら考える子どもたち』

- ・すすんで挨拶をし、明るく温かい幼稚園を目指す。
- ・どのような状況でも、物事の善悪を自分で考え、正しい行いをしようとする。
- ・好奇心を持って、様々な活動に取り組み、楽しみながら自分の力を発揮する。
- ・神様のお創りになったすべての物に感謝する。

3. 評価項目の達成及び取り組み状況

評価項目・目標	取り組み状況
1 保育の在り方 保育の計画性 保育内容及び指導の在り方等を精査して指導計画を策定し、教育内容の充実を図る。	<ul style="list-style-type: none">・昨年度に引き続き、縦割り保育と横割り保育両方の良さを取り入れられるよう、異年齢で活動する日を「にじいろデー」とし、様々な活動や行事に異年齢で参加する機会を設けた。クラスの枠に囚われず、全教職員で園児達と関われるように心掛けて過ごしたが、課題も感じている。・学期毎に職員で反省会を行い、保育を振り返る時間を設けている。また、今年度はクラスの園児の様子を伝え合う職員会議に加え、日々の保育を分かち合う園内研修を月に1度行った。園児の様子線の密な共有はもちろん、教職員間で互いに保育について語り合うことができ、有意義な取り組みとなっている。・今年度より、預かり保育を利用する年長児は就学に備え、10月より午睡をしないで過ごすように計画した。しかし、2学期は大きな行事が多いことに伴い、日中の活動量も増え、実際には午睡をしないと体力的に難しい様子が見られた。次年度は、大きな行事の少ない3学期から徐々に午睡時間を短くしたり、午睡しない曜日を設ける等、園児に負担のないよう午睡をしない生活に移行できるよう計画したい。・園児の主体性を伸ばす設定保育を心がけて、保育計画を立てるよう意識した。園児の興味、関心から保育を広げられたクラスもあれば、行事の準備や練習に追われ主体性を伸ばす保育ができなかったクラス、年齢に合わせた主体性の育み方に課題が残るクラスもあった。また、教職員間で「主体性の育み方」を深める必要性を感じた。
2 幼児への対応 安全管理の徹底、幼児理解の向上、子育て支援その他の充実を図る。	<ul style="list-style-type: none">・教職員一人ひとりが子どもとの関わりを深め、多面的に子どもを見ることにより、クラスの分け隔てなく園児を理解し、それを職員で共有し、保育に生かすことができた。・園児が安全に過ごせるように、園舎内外の危険箇所の再確認や教職員の配置等の見直しを行った。今後も引き続き、危機管理と共にリスク管理にも力を入れて、園児の安全を確保したい。・夏の暑さ対策として、2階ひまわり組にエアコンを設置した。今までは暑さをしのぐため、保育室を移動して保育することもあったが、現在は気温に左右されず、慣れ親しんだ保育室で活動することができている。・月に1度、様々な災害を想定して避難訓練を行なっている。今年度は、避難訓練を発展させるため、園児や教職員に詳細は伝えず訓練に取り組んだり、保護者の方へ訓練用の緊急連絡を送信することも計画に盛り込んだ。また、様々な災害について、園児がイメージしやすくなるよう、動画を見て学ぶ機会も多く取り入れ、理解を深めることができた。
3 保育者としての資質 保育専門家としての能力、姿勢、責任等、資質向上を図る。	<ul style="list-style-type: none">・保育者として、園児の成長を自分の喜びと感じ、生き生きと保育に務めることができた。・カトリック幼稚園という意識を高めるため、月に1度キリスト教について学ぶ機会を設けている。・園児一人ひとりの縦割り、横割りのクラス、預かり保育での様子を共有することで、園児を多面的な視点から見守ることができた。・同じクラスに入る職員間で「交換ノート」を用いて、園児の様子を共有したクラスがあった。それにより、様々な視点で園児の姿を捉えられたり、担任だけでは気付けない園児の姿を知ることができた。今後も、様々な工夫をして職員間で園児の様子を共有したい。

評価項目・目標	取り組み状況
	<ul style="list-style-type: none"> ・クラス担任に1台ずつiPhoneを支給することにより、保育の合間に簡単に園児の写真を撮影することができ保育中の園児の姿を保護者と共有することができたり、お遊戯等の音楽を園児が踊りたいタイミングで流すことができる等、メリットを感じた。今後も、有効に使いこなしたい。
<p>4 保護者への対応及び 家庭との連携</p> <p>園児に関わる情報の発信や受信、保護者のニーズの把握、要望や苦情に適切な対応を図る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者から相談があった時には、職員会議等で検討し、園の方針と状況、平等性を考慮しつつ、できるだけ応えられるよう努力した。今後も、保護者が相談や要望を伝えやすいオープンで温かい雰囲気作りを心掛けたい。 ・クラス担任と保護者との連携は、希薄にならないように心掛けたが、バス通園の園児の保護者との連携は希薄になってしまったと感じている。些細だけれど共有したいと思うような微笑ましいこと等、世間話程度の内容ほど、なかなか伝えられないと感じた。 ・LINEを通して、迅速におたよりやお知らせを送信することができた。また、必要に応じて写真を載せることで、分かりやすく伝えることができたと感じている。今後も保護者の方に分かりやすいおたより作りを心掛けたい。
<p>5 地域社会との連携</p> <p>地域の自然や社会との関わり及び小学校との連携を図り、地域開放の努力をする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・保健センターやこどもらんど、機関相談支援センターぽっけとの連携を密にし、園児の成長を地域の機関と見守れるよう心掛けた。特に今年度は、園児の実態に合わせたより良い保育ができるように、アドバイスをいただく機会を多く設けることができた。 ・昨年同様、年長児が小学生と交流することができ、就学に向けて期待を高めるひとつのきっかけを作ることができた。次年度以降も、交流を深め継続したい。 ・今年度は、定員を超える多くの利用があり、喜ばしい反面、保育室での自由遊びは場所の狭さを感じることもあった。次年度は、人数によって遊びとおやつ保育室を変え、子ども達がのびのびと楽しめるようにしたい。 ・小学校に兄弟のいる園児が登園しやすいように、小学校の行事予定を参考に年間行事予定を作成した。次年度以降も、引き続き作成の参考にしたい。
<p>6 研修と研究</p> <p>研修・研究を積極的に行い、専門性を高める努力をする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・オンラインの研修が主流となり、学びたい分野の研修に参加しやすい環境ができた。今後も積極的に参加したい。 ・教職員のキャリアアップのため、様々な研修に参加する機会を設けている。また、日常の会話や研修資料を通して、そこで得た知識を他の保育者と共有し、研修での学びを保育に活かすことができた。今後も教職員全体の保育の質が上がるよう、積極的に学びを深めたい。 ・今年度、多くの研修会に参加したが、中でも「日常保育の工夫」について取り上げた研修会での学びを保育に活かすことができた。毎日同じ流れで生活することで安心して過ごせる園児もいれば、退屈を感じる園児もいるため、園児の集中を向けられるような工夫を今後も取り入れたい。
<p>7 情報公開</p> <p>保育の現状や自己点検・評価の結果等を個人情報の保護に留意しつつ、積極的に園だより等で情報公開する努力をする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭と園との相互理解を深めるため、学校評価を実施し公開している。 ・園児の園での様子がわかるよう、各担任が保育の様子をInstagramで更新している。今年度は、クラスによって更新頻度に差が出ないように、各クラス月2回の更新を目標にInstagramを更新した。どのクラスも概ね目標はクリアできたと感じている。 ・毎月、横割りクラスでクラスだよりを発行している。保護者と共有したい園児の姿を記載したり、保育中の写真を掲載したり、クラス毎でその時に発信したい内容を載せて発行することができた。

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

- ・各自の自己点検、評価の結果に基づき職員会議を行なった。取り組むべき課題について、全職員が共通理解し、それぞれが取り組み状況を話し合うことで本園の方針を明確にし、課題を再認識することができた。
- ・感染症の流行を理由に休園することなく、1年間保育を進めることができた。園児の家庭での健康管理に感謝しつつ、引き続き、園での衛生管理や適度な休息を取り入れ、体力作りや体調管理を徹底したい。
- ・職員間で園の課題や保護者からの要望等を共有し、より良い保育ができるように、また、保護者の方が安心して園児を通わせることができるように、教職員1人ひとりが努力し保育に努めることができた。また、クラスの隔たりなく、園児の成長や課題を理解して関わる事が出来た。
- ・認定こども園へ移行し、2年が経過しようとしている。園運営や保育に関する課題や改善点に気づいた時には、教職員で相談したり、話し合ったりすることで、1つずつ課題を解決してきた。次年度は、本園の特色を色濃く感じられるような保育を目指したり、保護者の方のニーズに応えられるよう邁進したい。

5. 今後取り組むべき課題

課題	具体的な取り組み方法
保育の在り方	今年度は、本園の特色について教職員で話し合うことができた。その結果を踏まえ、次年度は特色を活かした保育ができるように心掛けたい。
保育の在り方	「にじいろデー」として異年齢保育を取り入れているが、異年齢間の関わりを更に深められるよう、次年度は回数や内容を見直したい。
研修と研究	職員間で「主体性の育み方」を学び、深められるように、日常の保育の様子はもちろん、保育方法や園児との関わり方等の共有を積み重ね、主体的な保育について研究したい。

6. 学校関係者の評価

◎評価方法は『A（満足）』『B（やや満足）』『C（やや不満）』『D（不満）』の4段階で、感想等も記入して頂く方法で実施。

- 「保育の在り方・保育の計画性」・・・A：4名 B：4名 C：0名 D：0名 無回答：1名
「年中当初から、遊びを通して平仮名など、学ぶことの楽しさを教えていただきました。」「年々、イベント・行事が減っているのではないかと感じる。なくすにしてもその理由を保護者に明示してくれると納得しやすい。」等のご回答をいただいた。
 - 「園児への対応」・・・A：6名 B：1名 C：1名 D：0名 無回答：1名
「子供も私どもも、安心して幼稚園に通うことができます。できることできないことを見極めていただいて、見守っていただきました。」「園側と保護者側が考える危機意識に差があると感じる。様々な避難訓練を盛んに行っていることは非常に良いと思う。」等のご回答をいただいた。
 - 「保育者としての資質」・・・A：6名 B：2名 C：1名 D：0名 無回答：1名
「家ではできないことも、幼稚園ではできるということも多々ありました。ご指導が的確で子供のいいところを引き出してくださっていたと思います。」等のご回答をいただいた。
 - 「保護者への対応」・・・A：6名 B：2名 C：0名 D：0名 無回答：1名
「少し心配なことも先生に相談すると、しっかりと見ていただいていたりと、その後のサポートもしていただいたり、すごく細かくみていただいていた。」等のご回答をいただいた。
 - 「地域社会との連携」・・・A：5名 B：3名 C：0名 D：0名 無回答：1名
「バスに乗ってお出かけしたり、暖かい日はお散歩に連れ出していただいたり、いつも送迎は車でしているので、お散歩することで普段見ない景色を見せていただきました。」等のご回答をいただいた。
 - 「情報公開」・・・A：4名 B：4名 C：0名 D：0名 無回答：1名
「行事のあとはアンケートを実施して、公表していただくことで他の方の考え方も知ることができてためになっています。そして、すぐに改善できるところは改善に努めていただいて、毎年よりよく変わっています。」等のご回答をいただいた。
- その他・・・「日々の保育業務にお忙しい中、園児が安全に安心して楽しく取り組めるよう活動していただき、ありがとうございます。」「いつも安心して幼稚園に登園できる環境、ありがとうございます。」「園に対する感謝や労いの言葉をいただいた。また、「土曜日の預かり保育を復活してほしいです。」というご意見もいただいた。

7. 財務状況

大手監査法人である太陽ASGの有限責任監査法人（東京）の監査を受け、適正に運営されていると認められていると認められている。また、法人本部の財務状況報告により法人内各幼稚園及び学園全体の財務状況は職員の間にも周知されており、共通理解に立つて効率的な運営に努めている。